

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700436		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(笹生)		
所在地	宮城県名取市愛島笠島字東南沢74-1		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0470700436-00&PrefCd=04&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成25年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山沿いの自然豊かな環境で、季節感にあふれた昔ながらのゆったりとした生活を営むことができます。建物もぬくもりを感じるゆったりとした建築です。その中で利用者ひとり一人が、自分らしく、自由でのびのびと、安心して笑顔で暮らしていただきたいと思っています。隔月で運営推進会議を開催し、地域住民や行政と意見や情報交換の場を設けています。また、このような会議を通して当事業所が開催する行事に地域住民に参加していただいたり、地域の行事に参加させていただいたり「地域と共に生きる」、地域に根ざしたホームをめざし、また実践しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

竹の葉が風に吹かれてたてる葉擦れの音が感じられる静かな環境で、それぞれが自分らしく心穏やかに生活している。開設8年目を迎え、ホームの避難訓練や夏祭りなどに地域の方々や家族の参加があり、常に近所の方から声を掛けてもらうなど地域に溶け込んだ暮らしがうかがえる。20代から60代の職員はチームワークが良く、向上心を持って働いている。「改善シート」に日々の気づきを出し合い、毎月職員会議で意思統一を図り、ケアの質の向上に努めている。この「改善シート」は本社に提出し、法人全体で検討されている。今後、利用者の思いに寄り添ったケアで、良好な状態を維持出来た事例をまとめ、今後の職員教育に活かしていきたい、また、広く一般の方々にもグループホームの取組みをより一層理解してもらえるように働きかけたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム もも太郎さん(笹生)

)「ユニット名 笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「自由に生きる」と「家族の絆」のほかに事業所としては地域密着型サービスの意義をふまえ「地域との絆」を大切にするという理念をつくり実践している。	職員会議等で振り返り、利用者の「自由」を大切にし、やりたいことが出来るよう支援している。地域との交流が深まることで利用者の安全・安心や職員の安心にもつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、夏祭り、新年もちつき大会などの行事の案内を地域に配布している。運営推進会議を通して行事のボランティアの協力をいただいている。また、地域クリーン活動、避難訓練も協力して実施している。	地域のクリーン活動に参加し、またホーム主催の夏祭りや敬老会などには地域の方々や家族等の参加があり交流を深めている。定期的に音楽ボランティアが訪れ、利用者は歌詞カードを作り楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練、事業所の行事、地域の行事に参加した際に自然に認知症の方たちと触れ合う機会ができ理解が深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催しており、運営報告や入居状況、その他運営に関しての問題などを取り上げ話し合いを行っている。地域区長や民生委員、行政より多くのご意見をいただき情報交換を行いサービスに生かせるような体制をとっている。	メンバーは地域区長、民生委員、市担当職員、家族で構成され、年6回開催している。入居状況、研修や行事の報告を行い、「避難訓練時の助言」「発電機や外灯の設置」などの意見や要望が出され、運営の見直しの機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加を依頼しほぼ毎回参加していただいている。運営報告すると同時に問題点など相談しアドバイスをいただいている。	市の担当者に運営推進会議の案内を持参し、土曜日の開催でも毎回出席しており、情報交換し運営上の相談もしている。市や地域包括から入所などの問い合わせなどがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人では、教育・運営・問題委員会を設け会議を開催している。その中でも教育委員会では拘束や虐待に対し協議が行われてる。その内容は各事業所へ議事録として配布され委員によって復命されている。事業所においても自由な行動を制限しないケアに取り組んでいる。	職員会議で身体拘束や虐待防止について勉強し理解している。日中、玄関は施錠せず利用者はユニット間を歩き来し、お茶や会話を楽しみ気分転換をしている。散歩時に近所の方々に顔を覚えてもらうように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加の促進、内部研修の開催、職員会議の実施により日頃より学習の場を設けて虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育委員会が社内研修テキストを作成し、法律改正時等に更新しながら各事業所に配布している。事業所では管理者、教育委員が中心となりテキストをもとにミーティングで話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と同時に質問や疑問点を確認している。家族や本人の立場に立ち、専門用語はさけて分かりやすく説明し理解と納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員、管理者が利用者、家族と細やかに話し合い、意見や要望が言い易い環境づくりを心がけている。また、運営推進会議への参加の促進や玄関先に意見箱を設けている。	家族会、面会時、受診報告などで来所した際に意見や要望を聞いている。要望から寝具類をリースにすることにした。玄関に意見箱を設置し、第三者委員を民生委員に委嘱している。家族アンケートからも職員への信頼がうかがえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を設け、意見や提案の場としている。また日頃よりコミュニケーションをとり、話しやすい環境を作っている。	日々の気づきを「改善シート」に記入し、毎月の職員会議で話し合い、運営の改善につなげている。職員の本音が聞けるように、日頃から話しやすい雰囲気作りをしている。職員には得意なことを担当してもらうなど、働く意欲を高める工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ブロック会議、全体会議を実施し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会は確保できているが、新任、現任の教育の体制(OJT)の確立(特に新任)に課題が残っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催のグループホーム同士の交換研修への参加と受け入れを行ったり、親睦会への参加を実施しネットワーク作りとサービスの質の向上をめざす取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状態の把握と要望に耳を傾け日常生活を観察し、出来ること、支援が必要なことを見極めている。要望等話しやすい環境をつくり信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時、計画書作成時、家族、本人の意向を聞き取り、契約内容や入所生活に対する不安や疑問を解消出来るよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、入居申し込み後、または入居後「その時」に応じて当事業所以外のサービスがふさわしいと思われた場合には他のサービスの紹介をするなどし、ご本人にあったサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力や意欲を引き出し、ひとりひとりに役割を持っていただき支えあって生きているという実感を持っていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は本人と一緒に支える共同体であるという意識を持ちまたその姿勢を家族へ伝え、家族にもそれぞれの出来る範囲で役割をもっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を継続できるよう心がけている。特に在宅からの入居の場合は継続性を重視した支援を心がけている。	家族や孫、兄弟などの訪問がありゆっくり話ができるように配慮している。年末年始に外泊する方がいる。自宅に出掛けても予定より早く戻るなどホームが馴染みの場所になっている。携帯電話を使用する方の支援もやっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性の把握し、良い関係を築いていけるよう必要に応じて職員が間に入り、関係性が円滑にいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した後も必要に応じて本人、家族、引継ぎをした事業者等に情報提供、相談や支援を行っていく方針である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦について、家族に作成してもらう等情報収集し、本人の意向把握に努めている。聞き取り困難な場合は本人の行動や表情から推測して利用者本位に努めている。	普段のしぐさや表情などから思いを汲み取り、支援している。不穏な場合には、じっくり話を聞くように努め、答えやすいような問いかけをするように配慮をしている。利用者の状態に応じた対応が見受けられた。	利用者の思いに寄り添ったケアで、良好な状態を維持出来た事例をまとめ、今後の職員教育に活かすことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族や他事業所より情報を頂き、以前の生活歴やサービス利用等の把握に努めている。また面会時家族から昔の暮らし方などを聞き取り、サービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、定期的なミーティングによりすべての職員がお互いに情報を提供しあい、より正確にひとりひとりの現状の把握が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に(少なくとも月に一回)モニタリングを実施し、定期的に(少なくとも3ヶ月に一回)カンファレンスを実施し、介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行いプランを評価する。医師、訪問看護師、家族の意見を取り入れ、3ヶ月または必要に応じて見直しを行い、家族に説明し同意を得ている。細やかな対応をしていることから状態が安定している方が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別にケアについて記録し、毎日申し送りを実施して情報を共有しケアの有効性について確認している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の多様なニーズに対応出来るようサービスを事業所内のみで完結せずに外部の様々なサービスを取り入れて満足度の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周囲は自然に囲まれており日本の昔懐かしい風景を楽しみながら散歩を楽しむことができる。また地域の人と日頃から交流することによりさまざまな協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に定期受診は家族に支援していただいている。必要に応じて家族と共に職員が同行し医療と連携している。また、受診が困難な利用者が往診を利用できる体制を整えている。	かかりつけ医受診には家族が付き添い、利用者の状態に応じて職員も一緒に同行することもある。受診結果や処方箋の報告を受け記録している。往診や訪問看護を利用している方もおり、日頃の状態を相談するなど連携を図っている。協力歯科医療機関による無料歯科検診や口腔ケア研修も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護資格取得している従業員はいないが、個別に契約している訪問看護師と連携をとれている。常に、利用者の健康状態を把握し、緊急時には迅速に対応できるよう家族、訪問看護、職員間で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には介護サマリーを提供している。また本人が入院中は管理者、ケアマネが中心となり病院の職員と積極的に情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、または本人の状態を見てできる限り早い段階で家族と相談し、本人にとって一番適した環境で終末期を過ごせる体制を整えることが出来るよう努めている。	看取りに関する指針を掲げ、重度化した場合には医師、家族、職員の三者で話し合い、本人にとって最適な方法を考えている。質の高い看取りケア実施に向けて医療の基礎知識を習得するために、看護師による研修を行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の研修などを実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、地域の方々に手伝っていたきながら避難訓練を行っている。また、備蓄倉庫を設置し災害に備えている。	地域の方々の参加協力を得ながら、夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。利用者は名札を付け、婦人会の方の法被着用での誘導が利用者に安心感を与え、スムーズに避難できた。非常防災持ち出し袋を玄関に備え、備蓄倉庫に食料品やカセットコンロなどを準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した呼び方に努めている。失敗しても恥ずかしい思いをしないようさりげない支援を心がけている。	本人の意思を尊重し、自己決定が出来るように働きかけ、その気になるまで待つように努めている。言葉遣いも慣れ慣れしくならないように常に意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃入居者からの訴えや希望を傾聴することにより安心して表現したり、自己決定出来る様心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースや都合を優先することなく、入居者の生活パターンに合わせて自由に楽しく生活できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に本人の能力に合わせて自己決定していただいている。困難な場合は昔から馴染んだスタイルを継続出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて、職員と野菜の下準備、テーブル拭き、片付け等していただいている。また、食事の前には今日のメニューを職員が説明してから召し上がっていただいている。	職員は昼食の献立を作成し買い物に行き、朝食と夕食は業者に食材を依頼している。利用者が出来る範囲で野菜の皮むき、配膳や下膳、テーブル拭きなどを行い、職員も一緒に和やかに食事をしている。夏祭りなどの行事にはノンアルコール飲料も用意して、気分が高められるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の能力に応じて個別に支援している。自立が困難になった場合でも簡単に介助することなく、自分のペースで召し上がっていただけるよう残存能力を活かせる工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせて毎食後必ず口腔ケアを実施している。また、口腔ケアの大切さを理解するために歯科衛生士による研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の持てる能力を理解し、個別のケアに努めている。簡単にオムツを着用するのではなくできる限りトイレで排泄出来る様な支援を心がけている。	排泄チェックを行いパターンを把握し、トイレに誘導するなど個々に合わせた支援を行っている。介助の際はプライバシーに配慮し、さりげなく行うようにしている。退院後、トイレでの排泄を支援し、オムツが取れた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の毎日の生活のリズムの維持に努めている。食事の内容を工夫すると共に、生活リハビリとして能力に合わせてできるだけ体を動かして生活できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重し、入浴のタイミングを決めるように努めて、気持ちよく入浴できるよう支援している。	毎日入浴する方もいるが、1日おきの方が多く、一人ひとり湯を換え支援している。浴槽で座位が保てない方にはミストシャワー浴で対応する。水虫などの感染防止にも配慮している。入りたくないという場合には時間をおいたり声がけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し共同空間や居室にていつでも休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬情報をもらい、症状の変化の確認をしながら服薬支援に努めている。また、薬局と連携が取れておりいつでも相談できる薬剤師がいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力と意欲を理解し、日々の役割を担っていただいている。また、創作活動等を通して楽しみを持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望により可能な限り外出支援をしている。職員の場合は近隣への散歩、家族は外食、ドライブなどを実施している。	90歳以上の方も多いため、体調を考えながら外出支援を行っている。春に花見を兼ねて外食を楽しんだ。秋にはいも煮を敷地内で行い、近所の方の飛び入り参加もあり一緒に楽しんだ。散歩やホーム前の自販機での買い物で気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向でかつ精神面において有効な場合は実施している。金銭管理は本人と家族にしている。職員は本人が財布を持っている事を確認のみして金銭管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今までの人間関係を継続できるよう支援している。本人や家族の意向を聞きできる限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に居間(ホール)の居心地に気を配り職員と利用者が共同で制作した季節のものを飾りゆったりとしたくつろげる空間づくりをしている。また、共同のスペースは適度な照明、温度、音に気を配り快適な環境づくりに心がけている。	居間の天井が高く開放感がある。利用者と一緒に行った団子さしや凧などが飾られ、昔懐かしい雰囲気がある。温・湿度が適切に管理され、テーブルの配置を工夫し、畳スペースやソファでもくつろげるなど居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースやソファを設置することにより居間に周りに気を使わずゆったりと過ごせる場所を作っている。また、テーブル席も職員の都合で場所を決めるのではなく、気のあった同士が同じテーブルで過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込みは自由であり、入居の際には、入居者が使い慣れたものや、馴染みのものを使用していただくようにしている。	各居室の扉に色の違う暖簾が掛けられ目印としている。テレビ、遺影、座椅子などが持ち込まれ自分らしい部屋になっており、配置などは本人や家族にまかせている。自室のペランダに自分で洗濯物を干している方もおり、それぞれの暮らしが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目の触れるところに掃除道具をいたり、トイレや浴室の場所がわかるように目印を設置し自主的な自立した生活ができるよう工夫している。また、日頃から職員は安全に暮らせる環境づくりをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700436		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(笹生)		
所在地	宮城県名取市愛島笠島字東南沢74-1		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0470700436-00&PrefCd=04&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成25年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山沿いの自然豊かな環境で、季節感にあふれた昔ながらのゆったりとした生活を営むことができます。建物もぬくもりを感じるゆったりとした建築です。その中で利用者ひとり一人が、自分らしく、自由でのびのびと、安心して笑顔で暮らしていただきたいと思っています。隔月で運営推進会議を開催し、地域住民や行政と意見や情報交換の場を設けています。また、このような会議を通して当事業所が開催する行事に地域住民に参加していただいたり、地域の行事に参加させていただいたり「地域と共に生きる」、地域に根ざしたホームをめざし、また実践しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

竹の葉が風に吹かれてたてる葉擦れの音が感じられる静かな環境で、それぞれが自分らしく心穏やかに生活している。開設8年目を迎え、ホームの避難訓練や夏祭りなどに地域の方々や家族の参加があり、常に近所の方から声を掛けてもらうなど地域に溶け込んだ暮らしがうかがえる。20代から60代の職員はチームワークが良く、向上心を持って働いている。「改善シート」に日々の気づきを出し合い、毎月職員会議で意思統一を図り、ケアの質の向上に努めている。この「改善シート」は本社に提出し、法人全体で検討されている。今後、利用者の思いに寄り添ったケアで、良好な状態を維持出来た事例をまとめ、今後の職員教育に活かしていきたい、また、広く一般の方々にもグループホームの取組みをより一層理解してもらえるように働きかけたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム もも太郎さん(笹生)

)「ユニット名 竹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「自由に生きる」と「家族の絆」のほかに事業所としては地域密着型サービスの意義をふまえ「地域との絆」を大切にするという理念をつくり実践している。	職員会議等で振り返り、利用者の「自由」を大切にし、やりたいことが出来るよう支援している。地域との交流が深まることで利用者の安全・安心や職員の安心にもつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、夏祭り、新年もちつき大会などの行事の案内を地域に配布している。運営推進会議を通して行事のボランティアの協力をいただいている。また、地域クリーン活動、避難訓練も協力して実施している。	地域のクリーン活動に参加し、またホーム主催の夏祭りや敬老会などには地域の方々や家族等の参加があり交流を深めている。定期的に音楽ボランティアが訪れ、利用者は歌詞カードを作り楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練、事業所の行事、地域の行事に参加した際に自然に認知症の方たちと触れ合う機会ができ理解が深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催しており、運営報告や入居状況、その他運営に関しての問題などを取り上げ話し合いを行っている。地域区長や民生委員、行政より多くのご意見をいただき情報交換を行いサービスに生かせるような体制をとっている。	メンバーは地域区長、民生委員、市担当職員、家族で構成され、年6回開催している。入居状況、研修や行事の報告を行い、「避難訓練時の助言」「発電機や外灯の設置」などの意見や要望が出され、運営の見直しの機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加を依頼しほぼ毎回参加していただいている。運営報告すると同時に問題点など相談しアドバイスをいただいている。	市の担当者に運営推進会議の案内を持参し、土曜日の開催でも毎回出席しており、情報交換し運営上の相談もしている。市や地域包括から入所などの問い合わせなどがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人では、教育・運営・問題委員会を設け会議を開催している。その中でも教育委員会では拘束や虐待に対し協議が行われている。その内容は各事業所へ議事録として配布され委員によって復命されている。事業所においても自由な行動を制限しないケアに取り組んでいる。	職員会議で身体拘束や虐待防止について勉強し理解している。日中、玄関は施錠せず利用者はユニット間を行き来し、お茶や会話を楽しみ気分転換をしている。散歩時に近所の方々に顔を覚えてもらうように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加の促進、内部研修の開催、職員会議の実施により日頃より学習の場を設けて虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育委員会が社内研修テキストを作成し、法律改正時等に更新しながら各事業所に配布している。事業所では管理者、教育委員が中心となりテキストをもとにミーティングで話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と同時に質問や疑問点を確認している。家族や本人の立場に立ち、専門用語はさけて分かりやすく説明し理解と納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員、管理者が利用者、家族と細やかに話し合い、意見や要望が言い易い環境づくりを心がけている。また、運営推進会議への参加の促進や玄関先に意見箱を設けている。	家族会、面会時、受診報告などで来所した際に意見や要望を聞いている。要望から寝具類をリースにすることにした。玄関に意見箱を設置し、第三者委員を民生委員に委嘱している。家族アンケートからも職員への信頼がうかがえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を設け、意見や提案の場としている。また日頃よりコミュニケーションをとり、話しやすい環境を作っている。	日々の気づきを「改善シート」に記入し、毎月の職員会議で話し合い、運営の改善につなげている。職員の本音が聞けるように、日頃から話しやすい雰囲気作りをしている。職員には得意なことを担当してもらうなど、働く意欲を高める工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ブロック会議、全体会議を実施し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会は確保できているが、新任、現任の教育の体制(OJT)の確立(特に新任)に課題が残っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催のグループホーム同士の交換研修への参加と受け入れを行ったり、親睦会への参加を実施しネットワーク作りとサービスの質の向上をめざす取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状態の把握と要望に耳を傾け日常生活を観察し、出来ること、支援が必要なことを見極めている。要望等話しやすい環境をつくり信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時、計画書作成時、家族、本人の意向を聞き取り、契約内容や入所生活に対する不安や疑問を解消出来るよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、入居申し込み後、または入居後「その時」に応じて当事業所以外のサービスがふさわしいと思われた場合には他のサービスの紹介をするなどし、ご本人にあったサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力や意欲を引き出し、ひとりひとりに役割を持っていただき支えあって生きているという実感を持っていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は本人と一緒に支える共同体であるという意識を持ちまたその姿勢を家族へ伝え、家族にもそれぞれの出来る範囲で役割をもっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を継続できるよう心がけている。特に在宅からの入居の場合は継続性を重視した支援を心がけている。	家族や孫、兄弟などの訪問がありゆっくり話ができるように配慮している。年末年始に外泊する方がいる。自宅に出掛けても予定より早く戻るなどホームが馴染みの場所になっている。携帯電話を使用する方の支援もやっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性の把握し、良い関係を築いていけるよう必要に応じて職員が間に入り、関係性が円滑にいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した後も必要に応じて本人、家族、引継ぎをした事業者等に情報提供、相談や支援を行っていく方針である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦について、家族に作成してもらう等情報収集し、本人の意向把握に努めている。聞き取り困難な場合は本人の行動や表情から推測して利用者本位に努めている。	普段のしぐさや表情などから思いを汲み取り、支援している。不穏な場合には、じっくり話を聞くように努め、答えやすいような問いかけをするように配慮をしている。利用者の状態に応じた対応が見受けられた。	利用者の思いに寄り添ったケアで、良好な状態を維持出来た事例をまとめ、今後の職員教育に活かすことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族や他事業所より情報を頂き、以前の生活歴やサービス利用等の把握に努めている。また面会時家族から昔の暮らし方などを聞き取り、サービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、定期的なミーティングによりすべての職員がお互いに情報を提供しあい、より正確にひとりひとりの現状の把握が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に(少なくとも月に一回)モニタリングを実施し、定期的に(少なくとも3ヶ月に一回)カンファレンスを実施し、介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行いプランを評価する。医師、訪問看護師、家族の意見を取り入れ、3ヶ月または必要に応じて見直しを行い、家族に説明し同意を得ている。細やかな対応をしていることから状態が安定している方が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別にケアについて記録し、毎日申し送りを実施して情報を共有しケアの有効性について確認している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の多様なニーズに対応出来るようサービスを事業所内のみで完結せずに外部の様々なサービスを取り入れて満足度の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周囲は自然に囲まれており日本の昔懐かしい風景を楽しみながら散歩を楽しむことができる。また地域の人と日頃から交流することによりさまざまな協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に定期受診は家族に支援していただいている。必要に応じて家族と共に職員が同行し医療と連携している。また、受診が困難な利用者が往診を利用できる体制を整えている。	かかりつけ医受診には家族が付き添い、利用者の状態に応じて職員も一緒に同行することもある。受診結果や処方箋の報告を受け記録している。往診や訪問看護を利用している方もおり、日頃の状態を相談するなど連携を図っている。協力歯科医療機関による無料歯科検診や口腔ケア研修も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護資格取得している従業員はいないが、個別に契約している訪問看護師と連携をとれている。常に、利用者の健康状態を把握し、緊急時には迅速に対応できるよう家族、訪問看護、職員間で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提供している。また本人が入院中は管理者、ケアマネが中心となり病院の職員と積極的に情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、または本人の状態を見てできる限り早い段階で家族と相談し、本人にとって一番適した環境で終末期を過ごせる体制を整えることが出来るよう努めている。	看取りに関する指針を掲げ、重度化した場合には医師、家族、職員の三者で話し合い、本人にとって最適な方法を考えている。質の高い看取りケア実施に向けて医療の基礎知識を習得するために、看護師による研修を行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の研修などを実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、地域の方々に手伝っていただきながら避難訓練を行っている。また、備蓄倉庫を設置し災害に備えている。	地域の方々の参加協力を得ながら、夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。利用者は名札を付け、婦人会の方の法被着用での誘導が利用者に安心感を与え、スムーズに避難できた。非常防災持ち出し袋を玄関に備え、備蓄倉庫に食料品やカセットコンロなどを準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の能力と意欲を理解し、日々の役割を担っていただいている。また、創作活動等を通して楽しみを持って生活できるよう支援している。気分転換、体力づくりのためにラジオ体操やカラオケ大会等を催している。	本人の意思を尊重し、自己決定が出来るように働きかけ、その気になるまで待つように努めている。言葉遣いも慣れ慣れしくならないように常に意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃入居者からの訴えや希望を傾聴することにより安心して表現したり、自己決定出来る様心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースや都合を優先することなく、入居者の生活パターンに合わせ自由に楽しく生活できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に本人の能力に合わせて自己決定していただいている。困難な場合は昔から馴染んだスタイルを継続出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて、職員と野菜の下準備、テーブル拭き、片付け等していただいている。また、食事の前には今日のメニューを職員が説明してから召し上がっていただいている。	職員は昼食の献立を作成し買い物に行き、朝食と夕食は業者に食材を依頼している。利用者が出来る範囲で野菜の皮むき、配膳や下膳、テーブル拭きなどを行い、職員も一緒に和やかに食事をしている。夏祭りなどの行事にはノンアルコール飲料も用意して、気分が高められるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の能力に応じて個別に支援している。自立が困難になった場合でも簡単に介助することなく、自分のペースで召し上がっていただけるよう残存能力を活かせる工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせて毎食後必ず口腔ケアを実施している。また、口腔ケアの大切さを理解するために歯科衛生士による研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の持てる能力を理解し、個別のケアに努めている。簡単にオムツを着用するのではなくできる限りトイレで排泄出来る様な支援を心がけている。	排泄チェックを行いパターンを把握し、トイレに誘導するなど個々に合わせた支援を行っている。介助の際はプライバシーに配慮し、さりげなく行うようにしている。退院後、トイレでの排泄を支援し、オムツが取れた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の毎日の生活のリズムの維持に努めている。食事の内容を工夫すると共に、生活リハビリとして能力に合わせてできるだけ体を動かして生活できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重し、入浴のタイミングを決めるように努めて、気持ちよく入浴できるよう支援している。	毎日入浴する方もいるが、1日おきの方が多く、一人ひとり湯を換え支援している。浴槽で座位が保てない方にはミストシャワー浴で対応する。水虫などの感染防止にも配慮している。入りたくないという場合には時間をおいたり声がけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し共同空間や居室にていつでも休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬情報をもらい、症状の変化の確認をしながら服薬支援に努めている。また、薬局と連携が取れておりいつでも相談できる薬剤師がいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力と意欲を理解し、日々の役割を担っていただいている。気分転換、体力づくりのためにラジオ体操やカラオケ大会等を催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の場合となりのユニットには安全に自由に遊びにいけるように支援する。敷地外の場合は、家族と相談協力出来る限り希望に添えるよう努めている。	90歳以上の方も多いため、体調を考えながら外出支援を行っている。春に花見を兼ねて外食を楽しんだ。秋にはいも煮を敷地内で行い、近所の方の飛び入り参加もあり一緒に楽しんだ。散歩やホーム前の自販機での買い物で気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し出来る限り本人の希望に添えるかたちを取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今までの人間関係を継続できるよう支援している。利用者の何名かは自分の携帯電話を持って自由に家族や友人とやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に居間(ホール)の居心地に気を配り職員と利用者が共同で制作した季節のものを飾りゆったりとしたくつろげる空間づくりをしている。また、共同のスペースは適度な照明、温度、音に気を配り快適な環境づくりに心がけている。	居間の天井が高く開放感がある。利用者と一緒に行った団子さしや凧などが飾られ、昔懐かしい雰囲気がある。温・湿度が適切に管理され、テーブルの配置を工夫し、畳スペースやソファでもくつろげるなど居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースやソファを設置することにより居間に周りに気を使わずゆったりと過ごせる場所を作っている。また、テーブル席も職員の都合で場所を決めるのではなく、気のあった同士が同じテーブルで過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込みは自由であり、入居の際には、入居者が使い慣れたものや、馴染みのものを使用していただくようにしている。	各居室の扉に色の違う暖簾が掛けられ目印としている。テレビ、遺影、座椅子などが持ち込まれ自分らしい部屋になっており、配置などは本人や家族にまかせている。自室のペランダに自分で洗濯物を干している方もおり、それぞれの暮らしが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目の触れるところに掃除道具をおいたり、トイレや浴室の場所がわかるように目印を設置し自主的な自立した生活ができるよう工夫している。また、日頃から職員は安全に暮らせる環境づくりをしている。		